

現代の病気の多くは、免疫の異常によって引き起こされている

腸内細菌と免疫異常による病気の増加には、きわめて密接な関係があります。免疫とは、かつて「一度かかった病気にはかからない」という、経験的な現象を意味していました。例えば麻疹（はしか）にかかって治った人は、もう二度とかからないという意味で、「麻疹（はしか）に対しての免疫がついた」と言っていました。現在では、より大きな生体防御のしくみ全体について使われる言葉になります。簡単に言うと「免疫とは、自分と自分以外の異物を区別し、異物を排除する反応」を意味します。この「異物」には、外から来る病原ウイルスや病原菌のほかにも、外科手術で移植された他人の臓器なども含まれます。また、体の内部から発生する異常な自分の細胞（がん細胞）も含みます。このように、免疫とは自己を防衛するシステムそのもの。つまり、健康に生きていくためになくてはならない基本の機能です。病気の予防、発生、経過、治り方の全てに大きな影響を与えています。しかし、本来は自分の体を守るはずの免疫が異常をきたすことで、逆に病気を引き起こすこともあります。この免疫の異常による病気は、少し増えているというレベルではなく、近年爆発的に増加しているのです。免疫の異常による病気の代表には、アレルギー性疾患、自己免疫疾患、慢性炎症に伴う疾患などがあります。

《免疫の異常による病気の例》

- アレルギー性疾患・・・アトピー性皮膚炎、花粉症、食物アレルギー、アレルギー性結膜炎、アナフィラキシーショックなど
※アレルギー性疾患の原因は、本来は人にとって無害な花粉やホコリ、食べ物などを異物として排除しようとする免疫反応（免疫の異常）
- 自己免疫疾患・・・関節リウマチ、SLE（全身性エリテマトーデス）、ITP（特発性血小板減少性紫斑病（しはんびょう））、シェーグレン症候群、重症筋無力症、バセドウ病、橋本病、クローン病、潰瘍性大腸炎、I型糖尿病、円形脱毛症など
※自己免疫疾患の原因は本来反応しない自分の細胞を異物として排除しようとする免疫反応（免疫の異常）
- 慢性炎症に伴う疾患・・・ガン、高血圧、高脂（コレステロール）血症、糖尿病、肥満、動脈硬化（心筋梗塞、狭心症、脳梗塞、脳出血）、心不全、不整脈、慢性肝疾患（脂肪肝、肝硬変）、慢性腎疾患、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、喘息、炎症性腸疾患、骨粗鬆症、認知症、うつ病、自閉症など
※がんや生活習慣病など、ほとんど全ての慢性疾患がここに含まれるが、最近になってこれらの病気の背景には慢性炎症（免疫の異常）があることがわかっている。

このように現代人に多く見られるほとんどの病気の背景には、免疫の異常があることになります。

病気にならない暮らし辞典 自然派ドクター 本間真二郎先生



輝羅羅ゴールドは植物発酵エキス（大和酵素原液）やラクトフェリン、胃酸に強く生きたまま腸まで届くロンガム種ビフィズス菌200億、そして健康なヒトの腸内に多くいる乳酸菌エンテロコッカス・フェカリス（F K-23）6000億個やその菌体抽出物（L F K）50mgなどを配合した食品です

225g（2.5g×90包）

本体価格28,000円+消費税